

技術的知見を生かし防災DXソリューションを一段と強化

迅速かつ的確な意思決定を支援するデジタル基盤 防災マネジメント支援システム〈Stage〉

気候変動により、水害は頻発・激甚化しています。特に局地的豪雨による水害では、短時間で被害を想定し、対策の判断や関係者への指示、避難情報の伝達が求められます。こうした対応は、行政や民間企業の防災担当者には大きな負担を生じさせています。当社は、これらの課題に対応し、迅速かつ的確な意思決定を支援するための防災DXソリューションとして、**防災マネジメント支援システム〈Stage〉**を開発しました。

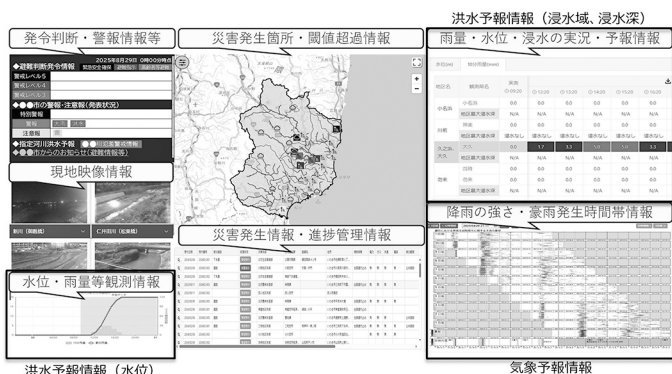
本システムは、行政や民間企業向けの防災DXソリューションであり、(1) 予想雨量閲覧システム「Preview」、(2) 災害対応等支援システム「防すけ」、(3) 災害時情報共有システム「Manesus(災害版)」をクラウド上で統合し、平時の備えから災害時までの判断・行動・関係者間の情報共有を一体で支援するプラットフォームです。

平時・切迫時・復旧時の各ステージで、気象・水文データの把握から現場対応、関係機関との連携までをシーム

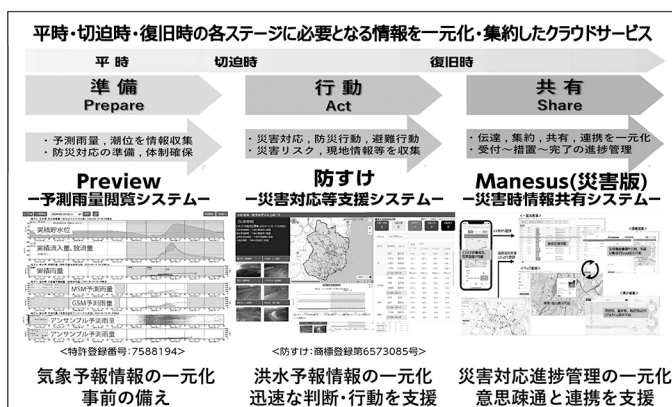
レスに実施し、防災担当者の負担軽減、対応時間の短縮、業務効率化に貢献します。特に、実況情報、気象予報情報、洪水予報情報(水位、浸水域、浸水深)、災害発生情報、進捗管理情報等を統合して可視化できる点は、従来の防災システムにはない強みです。本システムは、以下のような場面での活用を想定しています。

- 行政の防災担当者による、水防体制の構築、避難情報発令判断の支援、判断・行動および情報共有の迅速化
- 河川・ダム管理者による、洪水や渇水の見通し把握および事前放流の高度化
- 民間企業における、BCP(事業継続計画)に基づく事業継続および防災行動の支援

3月に当社は、気象業務法に基づく気象および洪水予報業務の許可を取得しました。今後は、予報技術の高度化と対象地域の拡大に取り組み、防災DXソリューションとしての利用拡大を図り、水害や渇水による被害軽減に貢献します。



気象および洪水の予報情報配信を含むシステム画面イメージ図(画面・機能はカスタマイズ可能)



防災マネジメント支援システム〈Stage〉の概要図

世界にまだ見ぬ豊かさを届けたい。

1946年の創業以来、私たち日本工営は、国内外で社会資本の整備に尽力してきました。創業者の久保田豊は「誠意をもってことにあたれば必ず途(みち)は拓ける」と説き、安全・安心な社会基盤づくりに技術と情熱を傾けてきました。信念をもって事業にあたりに、社会に貢献するというDNAは、今も従業員一人ひとりに脈々と受け継がれています。世界には、まだ見ぬ豊かさを求める人々であふれています。私たちは、これからも誠意をもって各地で国づくり・社会づくりに貢献していきます。

日本工営株式会社

<https://www.n-koei.co.jp/consulting/>

本社住所: 東京都千代田区麹町5丁目4番地
代表電話: 03-3238-8030



ID&E
A member of Tokio Marine Group